

灘区医療介護サポートセンター便り



2025 年(令和 7 年) 10 月 第 12 号

発行 灘区医療介護サポートセンター

住所 灘区水道筋1丁目24 灘区医師会館内 電話 078-801-1120 FAX 078-801-1121

朝夕の空気が澄みわたり、日ごとに秋の気配が深まっていくのが感じられます。

みなさま、いかがお過ごしでしょうか。



「医療介護サポートセンター」は地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

「サポートセンター便り」では、医療・介護・福祉職の皆さまの連携に役立つ情報や研修会等の活動報告を発信してまいります。

R7 年度後半の研修会予定

参加費は無料です
詳細が決まり次第、順次お知らせいたします。
顔の見える関係づくりにもご活用ください！

ご参加お待ちしております



令和 7 年度 灘区多職種連携研修会

(共催:灘区歯科医師会・灘区医療介護サポートセンター)

*在宅療養をされている方は、糖尿病、心疾患など様々な疾患を併発されています。そのような方々への歯科診療の注意点や観察のポイントなど、総合病院の歯科・歯科口腔外科医の視点からお話いただく予定です。

【日時】2025 年 10 月 25 日(土) 18:00~19:30

【場所】灘区文化センター 5 階大会議室

【講師】神戸市立医療センター中央市民病院 歯科・歯科口腔外科部長 谷池 直樹 先生

第24 回さくら塾～多職種連携研修会～

(主催:灘区在宅ケア推進会・灘区医療介護サポートセンター)

*在宅医療・介護に携わる多職種の相互理解や情報共有ができ、皆さまが連携して取り組める体制づくりを進めていくために「さくら塾」を開催しています。

今回は、『医療・介護・福祉関係者の多職種協働によって、医療・介護・福祉を必要とする状態の方、または心身に課題はあるが医療・介護・福祉につながっていない方を支援することで、住み慣れた灘区で住民が安心・安全に暮らせる』ことを目標に、『灘区のめざす姿』を皆で共有します。



テーマ: 灘区のめざす姿

【日時】2026 年 2 月 14 日(土) 時間は 14:00~16:00 を予定

【場所】灘区文化センター 5 階大会議室



令和 7 年度 灘区医療・介護関係者の研修会

1)「食支援—第4弾—」

*多職種が協働し“食べる”を支えることが地域での食べる力を高めます。口腔機能や食事摂取の改善に関わる専門職から支援のポイントなどをお聞きしながら、事例を通して学ぶ機会です。

【日時】2026 年 3 月 7 日(土) 14:00~15:30

【場所】灘区文化センター 5 階大会議室

【講師】医師、歯科医師 等



日 時： 令和7年7月24日(木) 18:30～20:30 灘区文化センター5階 大会議室

主 催： 灘区医師会、灘区医療介護サポートセンター

内 容： プログラム1. 特別講演「認知症の最新治療とその最適化のために必要なこと」

講師：神戸大学大学院 保健学研究科 リハビリテーション科学領域 教授

認知症予防推進センター長

古和 久朋 先生

プログラム2. 事例紹介「医療とつながり、主治医との連携で生活が安定した認知症高齢者の事例」

事例提供者：訪問看護ステーション アスカケアライフ灘

佐藤 功一 氏

参加者： 51 名

【お話しの中から】

初期の認知症診断に使用できるフレーズ

*キラーフレーズ：「最近のニュースで気になることはありますか？」

本人に認知症検査だとは気づかれずに話ができる。

- ・新聞はあまり読まないから・・・
- ・テレビはあまり見ないから・・・
- ・そんなこと急に聞かれても・・・

取り繕う発言は⇒認知症の疑い



【質疑応答から】

Q:生活への支援にも拒否があるような方に対して、医療や各事業所と連携するにあたり、どのようなアプローチをすれば、円滑に受診や生活支援に繋がるのでしょうか。

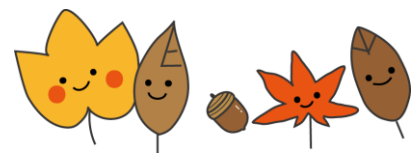
A:相談できる仲間を増やすこと。初期集中支援チーム(オレンジチーム)に相談してみたい。介入してから6か月経過すれば、地域のあんしんすこやかセンターに患者は戻ってくる。基本、医療とつながることが大切。何度も訪問し、人間関係を築くことで、患者さんの困りごとを聞き出していく。その困りごとを解決していく方法として、(認知症も診断できる)医師に繋いでください。

講師の古和先生から、アルツハイマー型認知症の新薬について、非常に詳しくわかりやすく講義していただき、その機序や対象者について理解が深まりました。対象者である初期のMCIの方を発見するために、昨年より神戸モデルとも連携しており、かかりつけ医の役割が大きいと感じました(新薬につなぐことができる神戸モデルに変更されています)。

また、事例紹介では、地域の中で取りこぼされた方を医師が多職種に繋ぎ、必要な支援が受けられたケースで、「あるあるの事例」ですという声が多く聞かれました。改めて、医師からの発信の大切さを皆で共有できました。

令和7年度 灘区医療・介護関係者の研修会

多職種でつなぐACP～その人らしく生きることを支援するために～



患者・利用者さんの「想い」は揺れ動きます。話している相手が「誰か」によっても表出される言葉は変わってきます。もしバナゲームの体験から、参加者自身の価値観や想いを知り、患者・利用者・家族さんへ、日々接するときの声のかけ方や向き合い方のヒントが得られたことと思います。

アンケートからも「ACPを始めるタイミングや進め方についてヒントが得られた」「もしバナゲームを通して、人生において大切な価値観や、自分自身のあり方について考えることができた」というご意見をたくさんいただきました。

日 時： 令和7年9月25日(木) 18:30～20:00 灘区文化センター5階 大会議室

講 演： かえでホームケアクリニック 顧問 関本 雅子 先生

グループワーク： もしバナゲームを体験してみましょう

参加者： 38 名

関本先生から、

『本人たちの気持ちは変わっていく、一度聞いてそのままということはない。変わったらその都度カルテに記載していく。

私たち、訪問の医師は、伺うたびに人生会議をしている。そんなイメージを持っていただいてもいい。

堅い話から始めるのではなく、その人の人生の話しから始めていく。「自分らしさって何？」って聞かれて「わからない」という人がいるかもしれないが、本人や家族から、その人の生き様をおしえていただいたら(語っていただく)、その人らしさを皆でイメージできると思う。そのうちそういう話をしているうちに、本人も気づくのではないかな。その方の日常をこまめに拾い上げていくことが、基本になるのかなという感覚を持っている。』など、明日からの実践につながる貴重なメッセージをいただきました。



第23回さくら塾 ～多職種連携研修会～ 「災害に備える～医療・介護・福祉の協働に向けて～part2」



自然災害や新興感染症の蔓延はいつ発生するかわかりません。だからこそ、平時からシミュレーションや訓練を行い、多職種、事業所間で連携しておくことが不可欠です。

灘区では昨年度より大規模災害に備え、行政や関係機関の対応を知ること、「医療と介護の連携」「他業種や同業種間の連携」「要援護者対応」などについて、課題抽出や対応等の検討を行う研修会を継続しています。

日 時:令和 7 年 8 月 23 日(土)14:00～16:30

場 所:灘区文化センター5階大会議室

参加者:63 名

研修目標:①区役所や医師会の大規模災害時の対応を知る

②災害時を想定した平時からの連携や協働について具体的に検討ができる

主 催:灘区在宅ケア推進会、灘区医療介護サポートセンター

内 容:1)講演1.「大規模災害時(地震発生時)の灘区役所における対応」

講師: 灘区役所 保健福祉課 管理担当係長 森本信之氏

講演 2.「災害時神戸メディカルチーム(D-KOMET)について」

講師: 神戸市医師会 担当理事 妹尾栄治先生

2)グループワーク「事例を用いてシミュレーションしてみよう」

事例:脳梗塞後、片麻痺あり、胃瘻造設、尿留置カテーテル挿入、吸引が必要な要介護5の 77 歳男性。要支援 1 の妻と 2 人暮らし、長女家族が近隣在住という設定

①災害を想定した A さんの事前の備えと、サービス担当者間の事前の対策・取り決めを考えてみましょう。

②平時からの他業種、同業種の連携方法について具体的に考えてみよう。

【灘区医師会会長から研修参加者へ向けて】

いざ発災したら、現場では何が起こるか、想定していても想定外のことが起こるであろうと思っています。神戸市医師会では、災害に備えて D-KOMET の隊員を募って活動しているところです。隊員は事前登録していますが、すぐに活動できない、倒れてしまうようなことがあれば、皆でバックアップができるように、乗り切っていきたいと考えています。このような会に今後ともご参加いただき、力をつけていっていただきたい。今後ともご協力をお願いします。

<グループワークから>

- ・グループで話しあい、いかに平時に具体的な話し合いができていないか改めて確認ができました。
- ・要介護 5 の方は自宅待機を想定しますが、そのための準備が重要で、その話し合いの場が担当者会議であるという意見が多くでした。
- ・支援者同士の顔に見える関係づくり、地域の方や民生委員との連携の重要性について改めて話しあうことができました。

<アンケートから>

- ・大規模災害時の行政や関係機関の動きや取り組みを知ることができて有意義であった。
- ・本人の意識・家族の意識を高めて、準備をしっかりできるように支援することの大切さを再度確認できた。
- ・災害関連死を防ぐために福祉や介護は不可欠だという話を聞き、命を救うのは医療だけではないことが分かり、医療、介護、福祉の密接な連携が重要だという気づきを得た。
- ・居宅介護支援事業所として自分の職場で、避難経路や担当者会議のあり方を検討したい。
- ・今回 2 回目の参加。何度も参加することで、より理解が深まると感じた。グループワークで協議した災害時の想定も、漠然としたものではなく、より具体的に細かいところまで想定することができた。参加者が増えれば、それだけ皆さんの防災に対する意識が高まり、災害に強い灘区になれるとも感じた。ぜひ次回も参加したい。

<まとめ>

具体的な利用者像を用いたグループワークでは、同業種、他業種、多職種で一緒に考えることで、自事業所それぞれの対応策を具体的にイメージでき、参加者で共有できたのではないかと感じました。

日頃から、担当者会議などを活用し、本人や家族、支援関係者で検討する場面での具体的な話し合いが重要だということを再認識いただけたのではないのでしょうか。このことは、災害時を想定した話し合いにも、ACP の話し合いにも共通しているように感じました。

今後も意識が風化しないように定期的に繰り返しこのテーマは継続していきたいと考えています。



【歯科往診について／歯科医院の情報】

①80代後半、女性、独居

外出が困難になってきている。通院していたところは往診対応されていない。

②利用者が新規で歯科医院を探しておられる。

対応➡灘区歯科医師会の訪問歯科診療問い合わせ窓口(往診担当連絡先)を案内。

灘区歯科医師会が作成されている歯科医院マップ、灘区歯科医師会のホームページ等について情報提供を行った。

【訪問診療への切り替え】

80代後半、女性

うつ血性心不全で当院へ定期的に通院しているが、認知症が進行しているためか、受診日を忘れる。訪問診療への切り替えを検討している。

対応➡訪問診療可能な3か所の循環器系クリニックの情報を提供しました。

【皮膚科往診】

80歳、女性

左大腿部に発赤ができています。左を下にして横になっていることが多く、褥瘡の疑いあり。

今のところ外出が困難。内科主治医から皮膚科の往診をしてもらうように言われた。

対応➡区内の往診可能な2か所について情報提供しました。

【精神科クリニックと利用者支援について】

(本人)独居、87歳、女性、要支援2、訪問看護(リハビリ)と1回/週の訪問介護を利用中

うつ傾向、ひきこもり気味

(娘さん)母親がうつ傾向であるのを心配し、娘さんが毎日訪問して食事の用意をしている。

本人は精神科への受診を拒否している。まずは、ご本人に対してカウンセリングできるクリニックを伝えようと思っているが、どのように支援をすればよいか一緒に考えてほしい。

対応➡娘さんも疲弊してきているのではないだろうか。区内の相談員がいる精神科クリニックについて情報提供し、相談者と共に相談内容を整理しながら助言をおこないました。



医療介護サポートセンターについて

「医療介護サポートセンター」は、神戸市内の各区の医師会内に設置されています。地域の医療・介護関係者の連携をサポートすることで、安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

＝具体的な機能と役割＝

●在宅医療に関する相談窓口

医療、介護の関係者からの在宅医療に関する相談に対して、コーディネーターが必要な情報提供や支援・調整を行います。

●地域の在宅医療・介護資源の把握

地域ごとに、在宅医療に取り組む病院、診療所、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設などの情報を収集し、関係者間の連携・調整に活用します。

●多職種連携の推進(多職種連携会議の開催、医療・介護関係者への研修)

地域の医療・介護関係者の連携を推進するため、お互いの業務の現状を知り、顔が見える関係づくりを目的とした、多職種連携会議を開催します。また、医療・介護等の専門職を対象とした、在宅医療・介護に関する研修会を開催します。

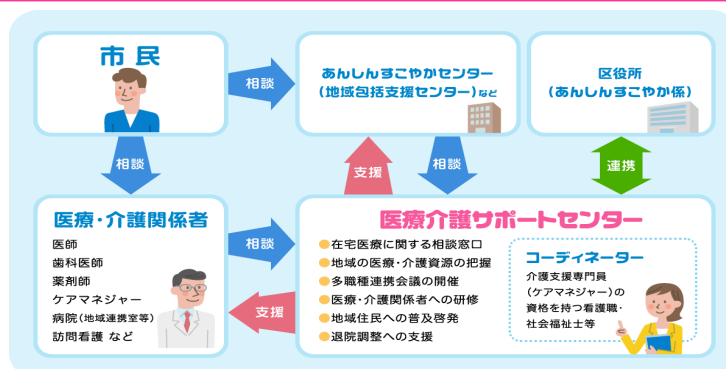
●地域住民への普及啓発

市民を対象に、在宅医療・介護への理解を深めることを目的とした講演会などを開催します。

お気軽にご相談ください

【ご相談について】

医療介護サポートセンターは、医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談に対応しています。
(市民からの介護に関する相談は、あんしんすこやかセンターをご案内ください。)



【編集後記】今年の10月6日は『中秋の名月』中秋の名月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われています。日本では中秋の名月は農業の行事と結びつき、「芋名月」とも呼ばれることもあります。秋の夜長を明るく照らす十五夜のお月さまを見上げながら月見団子を味わい、食べ物に感謝を捧げ、家内安全や健康、豊作などを祈ってみようかと思います。



医療介護サポートセンター ホームページのご案内

医療介護サポートセンターのホームページでは、各区サポートセンターの紹介やお知らせ、市民講座、研修案内、活動報告などご覧いただくことができます。ぜひ、ご利用ください。

URL: <https://kobe-iks.net>



灘区医療介護サポートセンターのページ

URL: <https://kobe-iks.net/area/nada>

二次元コードはこちら

